$\mathbf{8} \tag{138}$ 

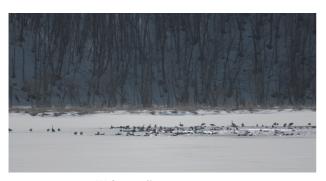
## 【随筆】

## びっくりなことの連続です

住 吉 尚 (釧路支部)

3月19日から翌20日にかけて道東は猛吹雪に見舞われました。釧路的には「彼岸荒れ」と言ってよくあることです。郊外へ出る道路は軒並み通行止めになると言うほどの吹雪です。我が家では「吹雪になるぞー!」と言うことで、買い物は前日のうちに済ませ、鍋にはシチューとなぜかお汁粉を準備して身構えました。

さて、この前日の18日は穏やかな一日でしたから、近くでタンチョウが営巣していないか?観察に出かけました。でもまだまだのようです。帰りにシラルトロ湖を通ると、ここでは氷が融けた所に沢山のヒシクイが飛来していました。ヒシクイはもう北帰行が始まっているのですね。水の中で逆立ちをして湖底の泥の中にあるヒシの実を食べているのでしょう。ここシラルトロ湖は夏になると湖面の2/3ほどはヒシに覆われますから、ヒシの実も沢山あるのでしょう。



開水面に集まるヒシクイ

さてこれを横目に見ながら丘を越えると塘路湖です。 こちらはまだ厚い氷に覆われています。釧路川への出口だけ少し開水面が見えただけです。でもこの周囲の氷の上に沢山の鳥が見えました。何?双眼鏡で確認すると全部アオサギでした。こちらはできるだけ小さく固まっているようで身動きひとつしません。繁殖のために渡って来たところなのでしょうが、まだ少し早かったようです。数は40~50羽と言ったところでしょうか。来てみたら未だ凍っていた、しかも明日は猛吹雪との予報が。渡って来たばかりのアオサギにとっては試練ですね。上手く生き残れるのでしょうか?私は動物園に勤務していました から動物の不思議な行動をよく目にしました。その中で、 猛禽類などハンティングをする鳥たちはケージの中にいても、大荒れになる前の日には沢山の餌を食べ、荒れている日は餌を食べないことが多いと思いました。私が思うに、これは気圧が急激に下がって行くのが鳥には判るようになっていて、天候が荒れる前にできるだけ沢山食べようとするのではないか?と思っています。でも今、目の前にある塘路湖は凍結したまま。アオサギができる手はただじっとしているだけ。体力の消耗をできるだけ少なくしながら、天候の回復を待つと言うことしかないと、知っているかのように見えました。そう思いながら見ると、ただじっとしているアオサギに、自然の中で生きるもののものすごい覚悟のようなものを感じました。



じっと固まっているアオサギ

猛吹雪が終わり少したってから、恐る恐る車を運転し、 あちこち見て歩きました。風で雪が飛び、草が出た所に はヒシクイの群れが。これは毎年この時期には見られる 光景です。1週間後には今度は大雨、こちらは予報ほど ではありませんでしたが、今度は急激な雪融けです。幸 い洪水になるほどではありませんでしたが、春先は季節 が行ったり来たり。そして低気圧の急激な発達と、気候 の変動が激しい時期ですね。春だ!魚釣りだ!と言いた いところなのですが、どうも思ったようにはなりません。 それでも、氷が融けた水路にチカが来ているか?出かけ ました。チカは3月下旬から4月にかけて産卵のために 浅い所に集まります。この時期のチカはあまり積極的に 餌を食べませんから、見える数の数十分の一と言うぐら いしか餌の方を向きません。どんな魚を釣るにも少々テ クニックが必要です。それもその日によってだったり、 その年によってだったり、場所が変わると全く違う誘い が必要だったりしますよね。こんなことがボケ防止に役 に立っているのですよ。この水路では昨年はチカが全く 寄らずにダメ。一昨年は4月の20日ぐらいまで釣れまし たが、今年は4月3日には魚がいなくなり終了となりま した。では海の中が昨年より早いのかと言えば、カレイ

では昨年は3月中に釣れ始めましたが、今年は4月に 入ってもまだまだ釣れません。魚の季節変化は種によっ て違いがあると言うことでしょう。

4月3日日曜日、魚がさっぱり釣れないので、タンチョ ウの観察を兼ねてクレソン採りに変更してみました。タ ンチョウは抱卵個体が見つかりましたが、とても深い藪 の中で、肉眼では確かにいることが判りましたが、写真 に撮っても藪しか写らないので断念しました。さらに 走って道路脇の沢に降りクレソンを採って帰りましたが、 このクレソンは今時期ほとんど水面下で成長しているの で、こちらも写真にすると水面が光っているだけで、こ れまた写真には向かないのです。と言う訳で、帰って良 く洗い、食べられるようになったクレソンの写真を載せ てみませた。なるべく水中の泥を入れないように注意深 く採ったつもりでしたが、どこに混ざっていたのでしょ うか?カワゲラの1種が窓ガラスに止まってました。水 生昆虫には真冬に成虫が出現する種がいくつかあります。 トビケラには道東の真冬に出現するものが2種類あるこ とが判っていますが、カワゲラは私にはさっぱり分かり



採って来たクレソン



カワゲラの 1 種

ません。成虫が雪の上をせっせと上流に向かって歩く種があるとは聞いていますが、今目の前にいる種が何かはさっぱり分かりません。ちなみに上流に向かって歩くのは、幼虫が下流に流されるので、その分を取り戻すため上流で産卵するのだとか。

4月7日、木曜日です。天気は良いのですが少々風の 強い日でした。そろそろ抱卵中のタンチョウが見られる かもと、道路脇で抱卵タンチョウが見られそうな所を見 に出かけました。標茶町内です。標茶市街地の西側に厚 生地区と言う所があります。ここを過ぎ、オソベツ川の 橋を渡って少し行った牧草地に何やら白と黒の大きな羽 が。オー、これはタンチョウの死体かと、バラ線をくぐっ て牧草地の中に。骨だけになったタンチョウの死体です。 足が残っていれば足輪があるかもと、思いましたが、残 念ながら翼と骨だけになった胸骨だけでした。



見つけたタンチョウの死体

さてオソベツ川の支流に沿って走ると、今年もこの小 川の中州に2羽のタンチョウが見えます。双眼鏡を出し ます。2羽とも足輪はありません。近付くとなぜか私が 走って行く農道へ2羽とも出てきました。先ほど2羽が いた辺りを見ると、作りかけの巣が見えます。まだ産卵 はしていませんでしたが、巣作り中のようです。ここ何 年かこの小川沿いに巣を作るタンチョウがいますが、毎 年のように雨が降ると増水して流されています。このつ がいなのでしょうが、中々懲りないのがタンチョウの特 徴なのですかね。今度は釧路川沿いに上流に向かって走 ると、ワオー、こんなところに座っても良いのかやと、 思わず叫んでしまったほどびっくりでした。そんな道路 脇の目立つところにタンチョウが座っているなんて。32 日間座っていられるのでしょうか? それにしても大胆な タンチョウがいたものです。普通は人間に見られるのを 嫌って、巣の上で頭を低くして見つからないような体制

10 (140)



抱卵中のタンチョウ

をとるものですが、この個体は緊張しているようですが 頭を高く上げ、隠れるような様子もありません。人家に も近く、犬や猫、キツネもいますし、もちろん好奇心が 抑えられない人間もいるでしょう。私には32日間(タン チョウの抱卵期間)座りきるのはとても難しいだろうと 思いました。

さらに走ります。釧路川築堤脇の小さな池が本日の本命ポイントです。こちらは1羽のタンチョウが池の縁に立っていましたが、まだ産卵はしていない様でした。さてこの後は鶴居、仁々志別と回って、動物園に用事があったので、ついでにタンチョウの死体を下ろしたところ、

「最近釧路市内で高病原性鳥インフルエンザが出ているので、直接持ち込まれても困るんだよね!」と言われてしまいました。でも死体は白骨化したものですので処分をお願いして、環境省に死体収容の報告だけはしておきました。

天気は良くても強い西風の日が多く釣りには行かれま せんでしたが、11日月曜日は久しぶりに弱い南風が吹い ています。釧路ですから南風の日と言えば霧がかかって います。でもやっと風が弱い日に当たったので、カレイ 釣りに出かけて見ました。もちろんですが釣果はさっぱ り。やっと釣れたカレイも産卵中で身はぺたぺたでした。 でもこの釣りの最中にもびっくりなできごとが。場所は 藻散布です。ここは狭い水路で水深は深くても2mほど です。足元を探っていると何か魚のあたりのような感じ がして竿を上げると、足元の水中を巨大な生き物がもの すごい速さで通り過ぎました。エー!私の眼には、私の 胴回りよりはるかにでかい胴が、黒地に白い輪紋が、そ うです、ゼニガタアザラシです。こんな狭い水路にまで 入り込んでいるのを見たのも、こんな近くで野生のアザ ラシに会うのも初めてです。私の眼の高さから3mは離 れていないのですから。アザラシは高速で泳ぐ魚を獲る のは苦手です。それで主に根魚やタコを食べています。

もしかしたら昨年の赤潮騒ぎで、根魚が極端に減ったため、産卵期のカレイを食べに水路に入ったのかもしれませんね。私の誘いで底から浮き上がった魚を見つけて襲い掛かったと言うことでしょう。魚が針にかかっていたら竿が折られるところでした。こんなことでは釣れなくて当然でしょうね。今日はこんなびっくりなことが、明日はどんなびっくりがあるんでしょうか。

七言絶句 五七五 強引 詰込美様式省略 暫定放置築山 帰札荷物自宅着 ヒヤシンス彼の地も同じ藍の色 問診はお経の如く 必要収納域確保 (札幌市 三回 蝦夷山 刻刻強陽射温暖 戻札幌大雪残骸 東京最終日満開 口 頑黒和尚 桜観乾杯

